

# (1) 第4期地域福祉計画の進捗状況について

## ① 重点施策1

### 地域の理想の実現に向けた取組への支援



令和6年3月1日(金)

第2回富田林市地域福祉推進委員会

## 重点施策1 地域の理想の実現にむけた取組への支援

### ■主な取り組み・方向性

- ①市内16小学校区ごとに校区交流会議を開催し、地域課題の共有と地域の理想を追求します。
- ②地域の理想の姿の実現にむけた校区プログラムを企画・実践します。
- ③校区担当職員が校区交流会議に参加し、地域と行政のパイプ役を担います。
- ④全庁的な「増進型地域福祉」の推進に関する情報共有や課題解決にむけた施策の検討を行います。

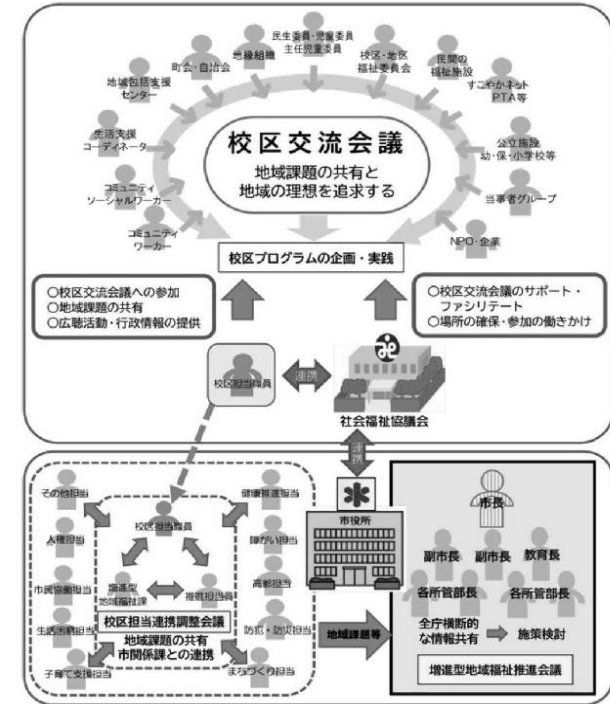
### ■量的評価

①	指標	令和8年度の姿	令和4年		進捗率	令和5年	
			計画値	実績値		計画値	実績値
①	校区交流会議参加者数 (実人数)	360人	計画値	296人	121.6%	計画値	312人
			実績値	360人		実績値	—
[取り組み状況等] 校区交流会議の新たな参加者が増えるよう、市のホームページに各小学校区の特徴や会議の取り組み状況等を掲載した。また、市の広報（令和5年1月号）に校区交流会議の特集記事を掲載し、増進型地域福祉の考え方や各校区で実践された校区プログラムを紹介し、広く市民に関心を持って参加してもらえるよう努めた。							
②	校区担当職員の参加率 (参加会議数/開催会議数)	100%	計画値	100%	88.8%	計画値	100%
			実績値	88.8%		実績値	—
[取り組み状況等] 校区担当職員は1班2人体制としており、業務の都合で参加できない場合も、可能な限りどちらか1人は参加するよう努めた。校区交流会議が89回開催されたうち、校区担当職員は延べ79回参加したが、議会の会期中等、やむを得ず参加できない際には事務局（増進型地域福祉課）職員が参加し、地域と行政のパイプ役となるように努めた。							
③	広聴活動報告数 (校区交流会議からの相談数)	48件 (3件/校区)	計画値	—	—	計画値	48件
			実績値	19件		実績値	—
[取り組み状況等] 10校区より19件の相談・要望を受け、内訳としては「広報誌への掲載、情報発信」（3件）、「避難所備品リスト、地図データ等の資料提供」（6件）、「市関係課への照会・調整」（7件）、「会議運営経費」（3件）に関する内容であった。							

### ■質的評価

○コロナ禍の制限が緩和され、校区交流会議の開催が本格的に進む中、校区交流会議参加者へのアンケート結果では、「住民同士の関係性」や「地域のつながり」が進んだといった意見がある一方で、「参加者を増やす・広げる」、「活動の周知」や「校区ごとの交流」が必要といった意見も多くあった。市や社会福祉協議会の役割として、「住民の主体形成や連携力」の発展に向けて、より一層、取り組んでいく必要がある。

○校区担当職員による校区交流会議での広聴活動では、大半が校区プログラムを実践する上で、行政に対して必要な協力を求める内容であり、地域と行政のパイプ役として、校区プログラムの企画・実践にも寄与しており、参加者とのコミュニケーションの醸成や相談・要望等への対応を重ねることで、地域と行政の関係性の構築につなげている。



[参考] 関連する取り組みの令和4年度実績

校区交流会議開催数	89回（49回）
校区プログラム実践数	5回（2回）
校区担当連携調整会議開催数	4回（1回）
増進型地域福祉推進会議開催数	1回（0回）

※（ ）内は前年度実績

### 地域福祉推進委員会意見

校区交流会議は、地域の理想の実現にむけて行政・社会福祉協議会・地域住民・福祉関係団体等が官民協働で取り組んでいくものであり、参加者それぞれが無理なく、長く継続していくことが重要である。

令和4年度は、全16小学校区において会議が開催され、参加者数（実人数）が計画値を上回るなど、一定会議が軌道に乗つつあると評価できるが、一方で、まだこの会議を知らない地域住民も多く、参加者が固定してしまっているといった課題も見受けられる。他にも、地域と行政のパイプ役となる校区担当職員のあり方について、「できるだけ同じ担当職員に長く参加してもらいたい」といった要望があるため、配慮していただきたい。また、校区交流会議をより発展させ、かつ、長く継続して実施していくためにも、喫緊の課題である会議の認知度向上・参加者数の増加に向けては、市民が会議に関心を持ち、参加者が広がるよう行政の発信力に期待したい。

## 令和5年度 進捗状況について(報告) R6.2.15時点

### ■令和5年度(R6.2.15時点)

	令和4年度	令和5年度 (R6.2.15時点)	備考
校区交流会議開催数	89回	79回	全16小学校区で開催
校区プログラム実践数	5回	15回	10校区にて実施
校区担当職員連携調整会議開催数	4回	4回	4月、7月、10月、1月に開催
増進型地域福祉推進会議開催数	1回	0回	

### ■重点施策評価シートにおける量的評価

	指標	令和8年度の姿	令和4年度		令和5年度		備考
			計画値	実績値	計画値	実績値	
①	校区交流会議参加者数 (実人数)	360人	計画値	296人	計画値	312人	実人数としては 10人増
			実績値	360人	2.15時点	370人	
②	校区担当職員の参加率 (参加会議数/開催会議数)	100%	計画値	100%	計画値	100%	70回/79回
			実績値	88.8%	2.15時点	88.6%	
③	広聴活動報告数 (校区交流会議からの相談数)	48件 (3件/校区)	計画値	-	計画値	48件	8校区12件
			実績値	19件	2.15時点	12件	

# 校区担当職員事業

- 校区担当職員相互の情報交換・意見交換
- 全庁的な「増進型地域福祉」の推進について検討
- 地域課題の共有、庁内関係課との連携

## ■校区担当連携調整会議の開催状況

開催日	参加者	主な検討内容等	校区担当職員の意見等
R5.4.28	・ 校区担当職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域福祉計画 評価指標の説明</li> <li>・ 令和4年度事業報告</li> <li>・ 助成金の見直しについて</li> <li>・ <b>校区交流会議、プログラムの進捗状況</b></li> <li>・ 意見交換等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 担当職員3年目となり、最初は何をしてよいかわからなかったが、地域にも受け入れてもらい、楽しく活動できている。</li> <li>● 地域住民が、「自分たちの地域を良くしたい」という思いが直接伝わってくる会議である。</li> <li>● 2校区担当しているので、他校区の取り組みを伝えることができるのは良い点。</li> <li>● 会議に参加できない時はあるが、ペアの職員と調整できるので良い。</li> <li>● 会議のメンバーが増えている校区もあり、活発な意見が交わされているが、様々な意見をまとめていくのが今後の課題となっている。</li> <li>● 一つのプログラムをやり遂げることで、成功体験となり、会議体の成長につながっている。</li> <li>● 日ごろの業務ではあまり関わりがないが、校区交流会議を通じて、担当職員同士のつながりができた。</li> </ul>
R5.7.28	・ 増進型地域福祉課		
R5.10.27	・ 社協職員（コーディネーター）		
R6.1.30	・ 市長（※4月、7月）		

## ■課題等

- 校区交流会議への安定的な参加
- 担当職員交代に伴う円滑な引継ぎ
- 地域課題の共有、全庁的な施策の検討



校区担当職員制度の見直し  
（一般職を含めた任命の検討）



# 校区交流会議の発展に向けた取り組み

令和6年2月9日(金) 全体校区交流会議 @すばるホール

(参加者 110名)

- ・校区交流会議メンバー
- ・校区担当職員
- ・部局長
- ・社会福祉協議会職員
- ・地域福祉推進委員会委員
- ・地域福祉活動推進委員
- ・市民等

- 各校区の取り組み発表
- 成果物の展示



増進型地域福祉が大切にしていること

- ・幸福の実現をめざす福祉
  - ・話し合いで進めていく福祉
- ➡その象徴としての「校区交流会議」

目的:各校区の取り組みを市全体で共有  
今後の発展的取り組みにつなげる



小野先生講義「校区交流会議と増進型地域福祉」



各校区の取り組み発表



R6.3月末まで市役所(1階)に掲示

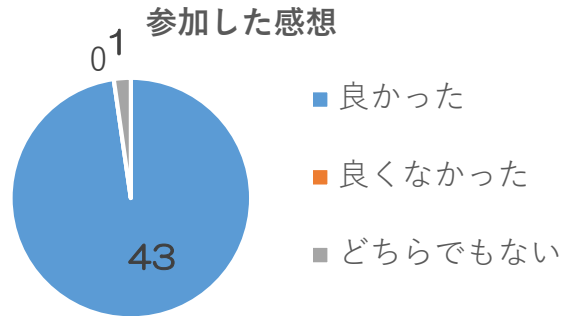
各校区の取り組みをパネル展示

## ■参加者アンケートより

# 回答 44件(回答率40%)

### 1. 参加した感想について

良かった : 43件  
どちらでもない: 1件



(その理由)※一部抜粋

- 各校区さまざまな取り組みで地区の“輪”を広げて福祉活動(幸せ)をしている事が良い。
- 他の校区の取り組みを知り、参考になった。
- 16校区それぞれの取り組みに新鮮さ、学びがあり、とても刺激になった。
- 発表は原稿を読むだけでなく、自分の言葉を入れても良かった。
- カテゴリーに分けると、前後の発表者で内容が重なるので、後の発表者の方が発表しづらそうだった。

### 2. 各校区の発表や展示について

(印象深かった点)※一部抜粋

- HUGゲームにより防災の必要性、災害への備えが必要だと思った。
- スタンプラリーで大人も子供もいっしょに歩いて良い運動になっており交流になっている。
- あいさつは手軽ではあるけれど、交流のためには有効なツールだと思う。
- スタンプラリーやロゲイニングは地域を知る事もでき、健康にも良い。
- ロコモ体操DVD作り、たくさんの方が利用できそう。
- 地域の歴史的なことを知るのに、小さい頃からその情報に接する機会を持てることは素晴らしい。
- 初めは何を話すのか分からなかったが、自分たちの住むまちを自分たちで考える場があるのが良い。

### 3. 今後の取り組みについて

(ご意見)※一部抜粋

- 増進型地域福祉が住民主体で行政が支えられるような型になれば良いと感じた。
- 施策は良いが、地域会議にいかに関係反映させるかが課題。
- 若い人の参加が少ない事が気になりました。もっと参加して頂く日程や時間にしても良いと思います。
- 地域もすこやかネットも、PTAも、同じキーマでの取り組みが行われていて、メンバーもほぼ同一なのが気になります。ミックスされれば忙しさも半減されると思います。コーディネートが必要。
- お互いに関心のある交流会議同士が、じっくり意見交換できる場(マッチング?)のようなものが作れたらと思う。
- 担当者が何かやっているのではなく、その日は地域みんな参加して楽しもうって思う活動。

## 令和6年度に向けて

- コロナが5類感染症に移行し、令和5年度は全校区で活発な校区交流会議、プログラムの実践が展開されている。
- 全体校区交流会議を4年ぶりに開催し、各校区の取り組みを発表、共有することで、今後の活動の参考としたり、会議の発展につなげていく。
- 校区担当職員については、見直しを検討しながら、安定的な会議への参加に努め、増進型地域福祉の取り組みをより全庁的に広げていく。
- 各校区に整備が進められている地域総合拠点(MINAYORU)をより効果的に活用していく。  
(現在開設校) 富田林・新堂・大伴・彼方・錦郡・川西・久野喜台・寺池台・喜志西・向陽台・彩和学園
- 各校区の取り組みから、**全市的な地域課題の解決に向けた施策を検討していく**

